

## 春シラスの漁況経過と秋シラスの見通し

### (1) 春シラス(2~7月)の漁況経過

今年の春シラスは、2月上旬に漁獲が始まり、6月15日までで延べ10トンという記録的不漁水準で推移しましたが、その後急激に漁獲量が増加しました(図1)。漁獲量は、1,301トン(7/31速報値)となり、過去5年平均(1,931トン)を下回りましたが、前年(1,137トン)を上回りました。水産の窓4-No.5「春シラスの漁況経過と見通し」で示した6月250トンの予測に対して286トン、7月皆無に対し1,010トンの漁獲となり、7月の予測が大きく外れました。

予測では、東北海域の冷水が6月下旬頃から南下し、7月に本県海域にとどまり、海水温が低下して漁獲量が少なくなるとしました。しかし、実際には、気象庁の「海洋の健康診断表」50m深の流況によると、7月1日には本県沿岸を北からの流れが犬吠埼まで流下し、冷水の南下傾向を示していましたが、7月10日には、北からの流れが弱まる一方、沖合から渦状の暖水の流れが強くなり(図2)、本県海域の海水温が上昇しシラス漁も中漁になりました。

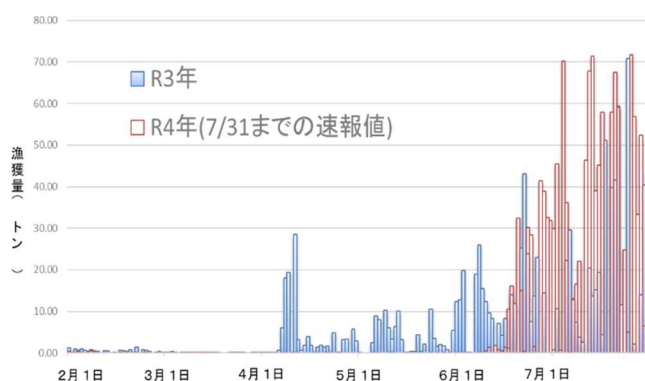


図1. シラス日別漁獲量の推移

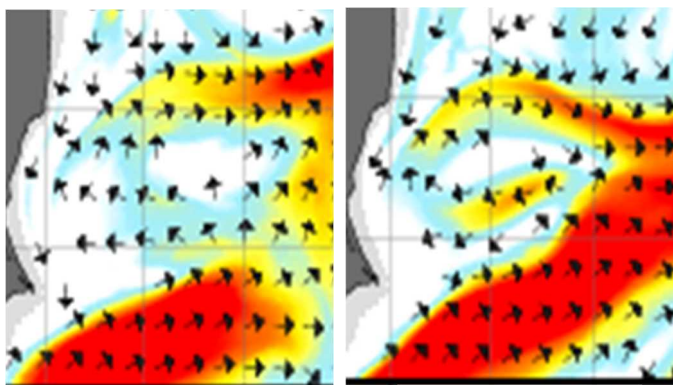


図2. 50m深の流況(左:7月1日、右:7月10日)  
気象庁【海洋の健康診断表】より

### (2) 秋シラス(8~12月)の見通し

本県の秋シラスの漁獲量は8月が最も多く、9月以降は減少する傾向にあります。また、8~9月の漁獲量は、7月の沿岸10m深の水温が高いほど減少する負の相関関係にあり、これを基に今年7月の海洋観測沿岸4点の10m深平均水温19.12℃から8~9月の漁獲量を予測すると876トンとなります(図3)。さらに、10~12月の漁獲量は、8~9月の漁獲量と正の相関関係にあり、これを基に予測すると231トンとなります(図4)。

以上から、今年の秋シラス(8~12月)の合計漁獲量は、1,100トン程度(前年1,985トン、過去5年平均1,619トンを下回る)と予測されます。

(回遊性資源部 茅根 正洋)

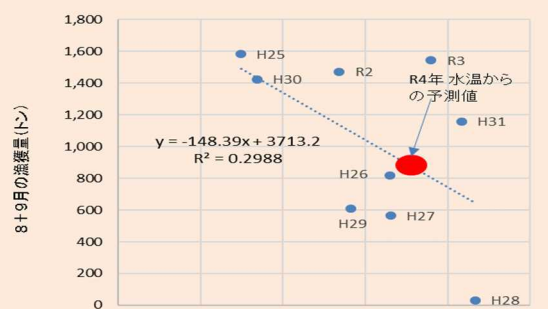


図3. 7月の水温と8~9月の漁獲量の関係

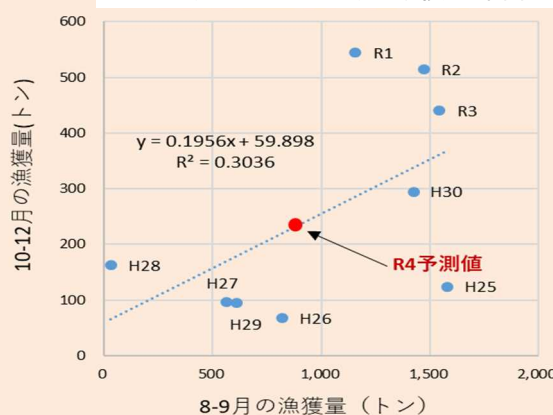


図4. 8~9月と10~12月の漁獲量の関係